

淀川左岸線（2期）事業リスクを問う

大阪市大規模事業リスク管理会議が9月1日に行われた。傍聴できなかったが、会議資料は入手できた。とにかく万博アクセスとしての淀川左岸線2期事業はめっちゃくちゃだ。こんなことで大規模事業「リスク」を管理できるのか。

淀川左岸線(2期)事業 事業リスクの対応状況について、建設局の報告を抜粋して紹介する。



1 地盤状況に関する対応状況について

- ・2—1工区での砂杭（サンドドレーン、サンドコンパクションパイル）施工時に地盤変状を確認(R3. 9. 29)
- ・現在の工法では施工が継続できなくなるリスクが判明(R3. 10. 22)
- ・学識経験者等の意見を踏まえた上で、施工方法の見直しを含めた対応策の検討を実施
↳対応策として全面的に固結改良工法への変更が必要

2 事業期間の延伸について

今回想定したリスクについて、関係機関と協議やコンサルタント等の第三者からの客観的なチェックを受けながら全体工程の見直しを実施している

[当初計画] 2018年10月 工事着手 → 2026年度末完了予定

[変更計画] 2018年10月 工事着手 → 2032～2034年度完了見込み 精査中

[変更理由]・地盤改良施工時に周辺地盤に変状が生じたことにより、同工法による施工を中断し、検証の上、工法を変更することとなったため、地盤改良の再開に約1年半を要する。

- ・これに伴い万博期間をまたいでの工事となり、万博暫定利用に必要な施設の整備、撤去に万博期間6カ月を含めて約1年半を要するため、あわせて約3年の期間を要することとなる。
- ・また、万博までに出入路区間を先行して構築するための工程の組み換えにより、出入路区間以外では作業ヤードや工事用アクセス路の制約を受けることになるため、1、2工区では先述の約3年とあわせてトータル4年程度の遅れが、3工区では工事用アクセス路が2箇所から1箇所へと半減する新御堂筋付近でトータル6～8年程度の遅れが見込まれる。
- ・以上により、全体完成が6～8年程度遅れる見込み。

3 事業費の増額について

今回想定したリスクについて、関係機関との協議やコンサルタント等の第三者からの客観的なチェックを受けながら事業費の見直しを実施している

当初計画 1162億円 756億円増額 現計画 1918億円 ▶約1000億円増額 精査中

(2022年9月4日)